

平成30年度 保育園・学校課題検討委員会（第7回）会議録概要

- 1 開催日時 平成30年4月25日（水） 午後6：30～8：00
- 2 場 所 飯山市役所 4階 全員協議会室
- 3 会議の経過及び発言

1 開 会

（事務局）

ただいまから、第7回 保育園学校課題検討委員会を開催します。

最初に、交代された委員の皆様に長瀬教育長より委嘱書の交付を行います。

委嘱書交付

全委員自己紹介

2 教育長挨拶

皆さん、改めまして、こんばんは。お仕事でお疲れのあと、お集まりいただきまして、ありがとうございます。この会議も二年目に入りまして、昨年度は、しろやま保育園とあきは保育園の2園が1園になるのが望ましいとの中間答申を出していただきました。2年目は皆さんからご意見をいただきながら、ある程度の方向性を出していけたらと思っております。

私がこの立場に就いて思っておりますのは、飯山の子どもたちが10年後20年後に、自立して、しっかりとやっていけるような力をつけてやりたいという願いでございます。力をつけると言うのは、学力はもちろんでございますが、人間として嫌なことや苦しいことにも耐えて生き抜く、したたかな力もつけてほしいな、ということでございます。ただ、私は年代が古いのでございますが、10年前20年前と大きく違うのは、これからの時代は非常に不透明な部分が多いということでございます。

10年前20年前でしたら、ある程度しっかりと勉強をし、力をつければ、ある程度の見通しがついたわけですが、今の時代、不透明な部分がたくさんございます。

それだけに、今の子どもたちは、自分を乗り越えると同時に社会を乗り越えるという、大きな課題があるというようにご理解いただければと思います。

その中でも特に、子どもたちが社会へ出ていく頃の、人工知能の発達による社会の大きな変化は、いろいろな学者が言っておりますが、今の職業の約6割がなくなるのではないかとされておりまして。そうした動きの激しい時代であるということですよ。

もう一つは、日本の大学を含めた教育が非常に大きな転換期にきているということですよ。

す。その具体的な流れは、日本が国際社会で生き残っていくためには、今までのような教育システムでは駄目であるという国の転換がございませう。今までと違ふ点は、大学入試の改革と申す上から下への流れの变化。今までの日本になかった動きです。

大学が変わると申すことは高校が変わり、高校が変わると申すことは、中学校・小学校も変わるということに繋がるということだ。具体的には、学習指導要領の大幅な改訂だ。目に見える形では、小学校での英語の導入あるいは道徳の導入。また、アクティブラーニングという新しい言葉もでてきておる。そうした世の中で子どもたちが生きていくということは、保育園時代から、きっちりとした環境で育てることが、飯山市の子どもたちの10年20年先の未来に繋がるのではないかと理解しておる。

それだけに少子高齢化など様々な課題が、飯山市だけでなく日本全体の大きな流れとしてございませう。

そのような中で、飯山市の子どもたちに力をつけるために、何をすべきかというのを考えるのが、我々大人に課せられた課題であると理解しておる。

そうした意味でもぜひ、皆様それぞれの現場で考えられていることを、この委員会でご意見として出していただき、飯山の子どもたちの未来に繋がるような方向性を導きだしていきたいと思っておる。

具体的には、彼らが中学3年生・高校3年生の時に、自由に、同じスタートラインに立たせてやりたいというのが、大きな願いでございませう。その辺もぜひ、ご理解いただきながら、この課題検討委員会がより良い方向性に繋がりますよう、ご理解とお力添えをいただきたいと思おる。よろしくお願ひいたします。

3 委員長挨拶

皆さん、こんばんは。

昨年度は保育園について検討いただきまして、委員の皆様には苦渋の選択をしていただき結果になったと私自身は感じておるが、今年度は、教育長からの挨拶にもありましたように、子どもたちが将来ハンディを持たないように飯山市の教育をどうしていくべきか、ということに尽きると思おる。

私、小学校・中学校・高校の、それぞれ孫がおる、一緒に生活しておりまして、学力も大事ですけども、孫を見ておると、長い将来・人生で、へこたれないでいってほしいなあと成長を見つめておる。孫に願うことは、今、申し上げましたように「へこたれず」「粘り強く」人間を全うできるように、小さな頃から皆と鍛えあっているような環境を私たちが整えられるところは整えてあげたいと感じながら接しておる。

今年度も皆様方から、ご意見を頂戴して飯山市の学校教育のあるべき方向を出してまいりたいと思おるので、何分よろしくお願ひいたします。

4 議 事

(1) 飯山市第5次総合計画 後期基本計画（教育分野）、飯山市公共施設等総合管理計画について

(事務局)

資料として概要版の後期基本計画をお配りしております。

こちらは各家庭へもお配りしておりますので、ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、飯山市は今後、これに基づいて進めていくという計画の概要版です。

まず「総合計画の構成と期間」ということですが、総合計画は10年計画でして、10年後の飯山市の将来像を示すといったものになります。そのなかで基本計画が、前期・後期に分かれておりまして、それぞれ5年計画となっております。前期計画が平成29年度に終了しましたので30年度から5年間の基本計画を策定し、お示ししているところでございます。今後、基本計画に基づき実施計画を行っていく流れとなっております。

続きまして後期基本計画の「将来都市像」ということですが、「自然と共生する豊かな暮らし『^{えにし}技と縁のまち飯山』」です。

前期基本計画5年間の総括を行い、5つの課題を掲げてございます。

課題一つ目として「人口減少」。若者世代の減少に対し抑制する取組が必要だということです。二つ目として「北陸新幹線飯山駅開業効果の拡充」。駅開業4年目と言うことで効果拡充ということですが、三つ目として「地域の産業振興」。人口減少に歯止めをかけるために地域雇用が必要であり、地域の産業振興が必要ということですが、四つ目は「安心して住み続けられる地域づくり」ということで、医療の関係、防災の関係でございます。課題五つ目が「学校教育」ということですが、児童生徒の減少に対し、「たくましさ^と郷土愛を育てる教育」を合わせて推進し、将来、飯山市の未来を担う子どもたちの学力・体力向上に向けた取り組みを進めていくために小学校・中学校の適正規模について検討が必要であるということ述べております。

この課題を受けまして【後期基本計画「いいやまづくり」4つの重点目標と21の戦略プロジェクト】ということで、子育て・教育の関係だけ説明させていただきます。

次ページをご覧ください。

1番「仕事と子育てのまるごと応援で若者が住みたくなるまちづくり」として若者定住が最優先課題でありまして、そのための施策として戦略プロジェクトの2番「飯山市子ども館」を拠点とした子育て支援のトータル化プロジェクトということですが、平成30年度に開館しますが、児童センター、児童クラブ、子育て支援センター、病後児保育、放課後等デイサービスという複合施設を造りましたので、子育てに関する総合的な支援を行っていくということですが、本施設により子育て環境をさらに充実し、若い世代の子育て支援・次世代を担う子ども達の成長を応援し、子育てするなら

飯山市の実現を目指していく、というものであります。

右下ページになりますが、4番「ICT 教育と国際交流を通じて生きていく力と郷土愛を育成するまちづくり」ということです。ここで、学校教育の部分ではありますが戦略プロジェクトの1番として「たくましい子ども達を育てるための適正規模検討プロジェクト」ということで、夢に向かい、自分の道を切り拓き、たくましく生きる力を育てるために小・中学校、保育園も含めた適正規模を検討しますということです。

2番「教育の情報化、ICT を活用した「学びのイノベーション」プロジェクト」ということで ICT 活用した授業実施によりグローバルに活用できる情報活用能力を育成するというものであります。3番は高校生の部分ではありますが、高校生が提案する市を活性化するための事業に対して支援を行う。これからの飯山市を担う子ども達を応援するというのでございます。4番目は「ふるさとを愛しふるさとに帰るための教育推進プロジェクト」。

郷土愛を育む教育を推進していくということで、教育を通じて若者が帰ってくる環境を整えていこうというものです。その次からは具体的な施策が載っております。

第5章では「たくましさと郷土愛を育てる教育」第6章で「子どもから高齢者まで安心して暮らせるまち」ということで、それぞれに学校教育と子育てについて進めていくというのでございます。飯山市全体として進めていくべき施策のなかで、適正規模についてもプロジェクトとして位置づけられておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

概要版と言うことでお配りさせていただいてございますが、飯山市全体の公共施設の総合管理計画概要版でございます。国の施策として平成28年度までに全ての自治体で公共施設のあり方について全体的な計画を、という中で、飯山市としても公共施設全体の管理計画を策定したものであります。その中で延べ床面積の20%の減少を目標として挙げてあり、そのうち学校教育と子育て支援について抜粋したものが次になります。

【資料5 ページ 学校教育系施設】

【資料6 ページ 子育て支援施設】

(2) 学校の適正規模・適正配置について

【資料7 ページ 学校の適正規模・適正配置 関係法令】

○学校教育法施行規則 第41条

○義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令 第4条

【8 ページ 学校の小規模化に伴って生じるデメリット】

【9 ページ 小規模校であることにより生かせる強み】

(3) 本市の小中学校の現状について

- 【10 ページ 平成29～35年度 児童数の推計】
- 【11 ページ 平成29～41年度 生徒数の推計】
- 【12 ページ 中学校児童生徒数・学級数推計（概算）】
- 【資料13 ページ 学校施設の状況】
- 【資料14 ページ 小学校児童及び中学校生徒の通学基本方針】
- 【資料15 ページ 市内小学校遠距離通学区域表】
- 【資料16 ページ 通学方法】

(委員長)

それでは、議事の(1)から(3)まで事務局からご説明いただいたところですが、委員の皆様から質問、ご意見があれば頂戴したいと思います。

教育長挨拶にもありましたが、子ども達によりよい環境をとという観点から、皆様方からご意見を頂戴していきながら、方向性を見定めていきたいというわけですが、新たに今日から委員を委嘱された皆さんから、まず、ご意見、感想でも結構ですので、お願いしたいと思います。A委員さんからお願いできますか。

(A委員)

情報量が多くて、今すぐ何も言えないのですが…、思っていたよりも少子化が進んでいるというのは承知いたしました。デメリット・メリットの話もありましたが、「何が適正か」と言うところの判断が難しいかなと思いました。その子、その子にとっての適正があるのではないかなと思ってしまうので、どこかで線を引かなければいけないのでしょうけれど、難しい判断だなという感想を持ちました。

(B委員)

何をやるのかもわかっていない中で出席しているので、現状でのお話は把握できました。実際問題、どれくらいの学校を適正規模にするのかという点で、今ある学校の耐震性だとか問題あるのでしょうか。具体的なところも勉強しながら、最終的には方向性というか生徒数とかもでてきているので、通学方法とかいろいろな問題と絡み合うんですけど、併せながら考えていかないといけないということがアバウトな感覚ですけど把握できました。

(C委員)

学校教育法って古いんだな、と感じました。児童数減少と言うことは世帯数の減少と言うことでもあると思うので、そのあたりの歯止めも何か考えていかないと厳しいのかなと感じました。

(D委員)

今のところ学校へ行くと、生徒数は多いなとは思いますが、推計を見ると H41 年には今の半分と言うことで、うかうかしてられないと感じました。

(E委員)

小学校から中学校の児童生徒数の推移をみて、子ども達の教育の適正規模という環境の場を作っていくということは、非常に大事なことなのかなと思います。

資料にもありますが、コミュニケーション能力といいますか、社会へ出た時に自分と言うものをいかに表現できるか、相手の思いをどうやって受け止めるかという場を、保育園・小学校・中学校、そして高校と意図的に作っていくというのが、私達大人の役割なのかなと思いました。感想です。

(F委員)

少子化に伴って児童生徒数が減っていくという現実が分かりました。適正規模が何人なのかと言うところも考えなくてはいけない。複式学級くらいの少人数になると厳しい状況であるということ。

デメリットにもありますが、学年により男女差もでてくるという中での教育を進めていく難しさも感じました。地域に学校があるということで、その場を活かしたふるさと教育ができているということも思うわけではありますが、広範囲になると、地域を知る「ふるさと学習」ということが難しくなるのかなと感じております。適正規模という面と、「ふるさとを愛し」という部分をどのようにしていくべきかな、と考えております。

(G委員)

資料を見て出生数が減っているということで、今後の推移を見て少子化を実感しました。保育園も学校も減ってしまうということに驚いています。

自分が保育園で担任した子ども達が、今年度、中学生になったのですが、その子たちの中で、自分がみた 10 数名の子のうち 3 人が、市外の中学校へ進学するという話を聞いて、全員が地元の中学校へ進学する時代ではないのだな、と驚きました。

子ども達が願い、進路選択し進学する訳ではありますが、それが良いことと思いつつも驚きました。

(G委員)

南北に長い飯山市の学校の状況を数字で知れてよかったと思います。

(H委員)

結婚し川中島に住んでいたが、子どもが三人いたので、手が足りず実家に近い飯山に

きました。小学校に進学する際に長野市へ戻ろうか迷い、伸び伸びと育てられる環境を考えて飯山を選んだが、実際これから減っていく状況を見ると子どもが育つのかな、果たしてこのまま生活していることがいのかなとは思っています。自分が100人を超える小学校の中で育ってきたので、これ以上減るのかと思うと、末っ子の時には何人になるのかと思います。市外から転入してくると税金は高いし、補助はないので、飯山に実家がない人にとってのメリットは少ないのではないかと感じています。

(I 委員)

市にとっては子ども達が増える施策を考えていただきたい。教育委員会だけの議論ではないと思いますが、それを進めなければ減少は止められないと思います。話の流れから統合も考えられるが、子ども達の選択肢が減っていくのはどうかと思う。学校すら選べず通学が遠くなり大変ということになる。個人的には飯山を出たいと思います。

(委員長)

新しく委員になられた方からのご意見と感想をお聞かせ頂きました。ありがとうございます。年度途中から区長協議会の交代等ありまして、2回目の委員さんもおられますが、ここにいられる委員の皆様からご意見をいただき、この委員会として将来の教育環境について方向性を出していきたいと思っております。

まだ時間がありますので、昨年度から委員をしていただいております委員さんから、感想・ご意見をお願いします。

(J 委員)

生徒数と学級数の推計を見ていると、全校で46名というのは、学校としての機能を果たしているのかな、と疑問に思います。単純に6年で割ると、一学年に10人いない。昔の分校形態しかとれない気がしてならない。メリットがあるかもしれないが、社会性の学びにはならない。仲良しにはなれるかもしれないが、それで伸びるかと言う疑問。言葉の中では切磋琢磨できないというデメリットが書かれているが、確かに切磋琢磨にはならないだろう。新しい情報は入らないだろうし、競争意識は育たないだろうし、家庭の延長線上でしかないような気がします。

保育園は、ひとつの社会へのデビューと思っています。保育園で培われた共同生活と言うのが、小学校での共同生活・社会生活へのデビューになり、その土台が、中学生での資質を育む土台になると思っていますので、あまり少ない学校の意義と言うのが掴みづらいと言うのが本音です。

たとえば自分が親で、小さな学校・集団の中で、ほのぼの伸び伸び、村の中の子どもとして育ってくれるのは一面良いかもしれないが、将来的に子どもが社会に出て、社会人になっていくというプロセスの中では、やはり何か物足りなさを感じている現状です。

(K委員)

小規模校についてJ委員からの意見がありました。9ページに小規模校による強みとありますが、これらは大規模校であってもできること。できないということではなく指導する教師一人一人の力量・資質の問題であって、ここに書かれていることがメリットなのかということについては個人的には疑問に感じております。

大きな学校だってできているよ、とは思っています。学校運営の仕方や子どもとの向き合い方、取り組み方であって、先程、ふるさと学習への不安がでましたが、そうしたことはないと思います。

中学の部活動についても社会体育活動へシフトしていくという国の流れがありますが、部活動が大規模校でも成り立たないという状況が出てきております。中体連の大会自体が学校単位で参加できず、上の大会にあがれない。これからどうしていくのか考えている状況で部活動に熱心な教員や保護者は、何とかしてくれという方もいますが、学校はまず学習をする場であるということ。それを考えていっていただきたい。

それから人口増対策について、大きな課題で、この委員会だけの問題ではないですが、飯山から出たいという気持ちがなくなるくらい魅力ある学校環境のための適正規模答申をここで出せたらと思います。

(L委員)

いわゆる適正規模を論じるということに起因することが多いとは思いますが、7ページに学習指導要領と通学距離が対比されています。統合によって学級数が増えれば通学距離が延びる。時間距離に置き換えて今は例外規定を適用されていると思いますが、この時間距離が子ども達にどう影響するのか、たとえば低学年ですと通学距離が長いと授業への集中力や朝食の欠食など。それを考えるとある程度見極めたうえで通学距離は大事だと思います。ここを考えないで範囲や数合わせの統合は危険かなと感じます。

仮に周辺市町村を含めて考える時代なのかも気になります。

保育園は喫緊3年という国の指針により前回示されましたけれども、学校のスパンはどうなのかを論じて、ある程度方向性を出していくのが良いのではないかと思います。

(M委員)

先程の保育園の保護者委員の意見を聞いて「よくぞ言ったな」と思いました。

そうした声に耳を傾けないと、昔からいる私らは耳が痛いけれども、そうした声をここの議論にとどめず市長にも伝えていただき政策とともに進めていただきたいと思います。

後期基本計画や公共施設管理計画に基づくという説明を聞けば、統合を考えていかなければいけない。とすれば、「統合してもいいよね」と思わせるような魅力ある学校となるように、学力なら「飯山すごいな、ここまで引き上げたのか」と思われるような日本

中から飯山すごいと思われるような答申を出せたらいいと思います。経費浮いてよかったですではなく、浮いた経費を子ども達に回せられるように、粗末な給食ではなく食育は社会生活の原理ですので、質の高い教育をぜひお願いしたい。

(N委員)

2回目の出席になります。20年30年先のことを考えた答申が出来たらと思っております。資料は現在の出生数からの推計ということで7~8年先までしかわかりませんが、その先を考えられるように、I委員から怒られてしまうかもしれませんが、そうは言っても現実問題、少子高齢化は日本全体の問題であるので、それを踏まえて議論していきたいと思っております。その上での20年30年先を考えるということだと思っております。

(O委員)

保育園は子ども達が遊びながら成長する場ですので、学校も自分たち自ら遊びたい、遊びたいと思えるような環境を建設の当初から考えていただきたいと思っております。

(P委員)

保育士の雇用にあたり、勤める保育士の通園距離は、時間にして30分以内はない。

市内にアパートを借りてというのも、アパート代4万円程補助しているが、市内のアパート代は高く難しい。早急に居住環境を整えないと将来にわたって保育士不足が懸念されます。飯山市のようにアパート需要がない地域であっても高い家賃はおかしい。

需要がなければ家賃は下げるものだと思うが、これだけ高い家賃相場の地域はない。そうした意味でも住みにくい。この状況を解消しないと住み続けるのは難しい。

もうひとつ、統合すると地域性を育てるのは難しいのではないかという意見がありましたが、1つのまとまった地域を育てていくということではないか。常盤だ、瑞穂だ、柳原だという小さくまとまる時代ではなく、早めに統合が打ち出されて、1つの大きな地域となるような方向に動けるように、今から「統合してこうなります」という絵を示すのがよいのではないか、ここで結論を出してこうなりたいといっても道ができない。もう少し実行できる場へ移しではどうか。

学校や保育園との懇談会があるが、学校は保育園や幼稚園に何を求めているのか。

相互理解を進めてはいるが、連携はできていないように感じる。教育の充実に向けての足取りが乱れているのではないか。そう感じます。

(委員長)

ありがとうございました。

皆様のお考え、飯山市で子育てしたくなるような提言ができるように、皆様のお知恵を、また頂戴できればと思っております。よろしく申し上げます。

5 その他

次回開催は、6月15日（金）18：30 とし、閉会。